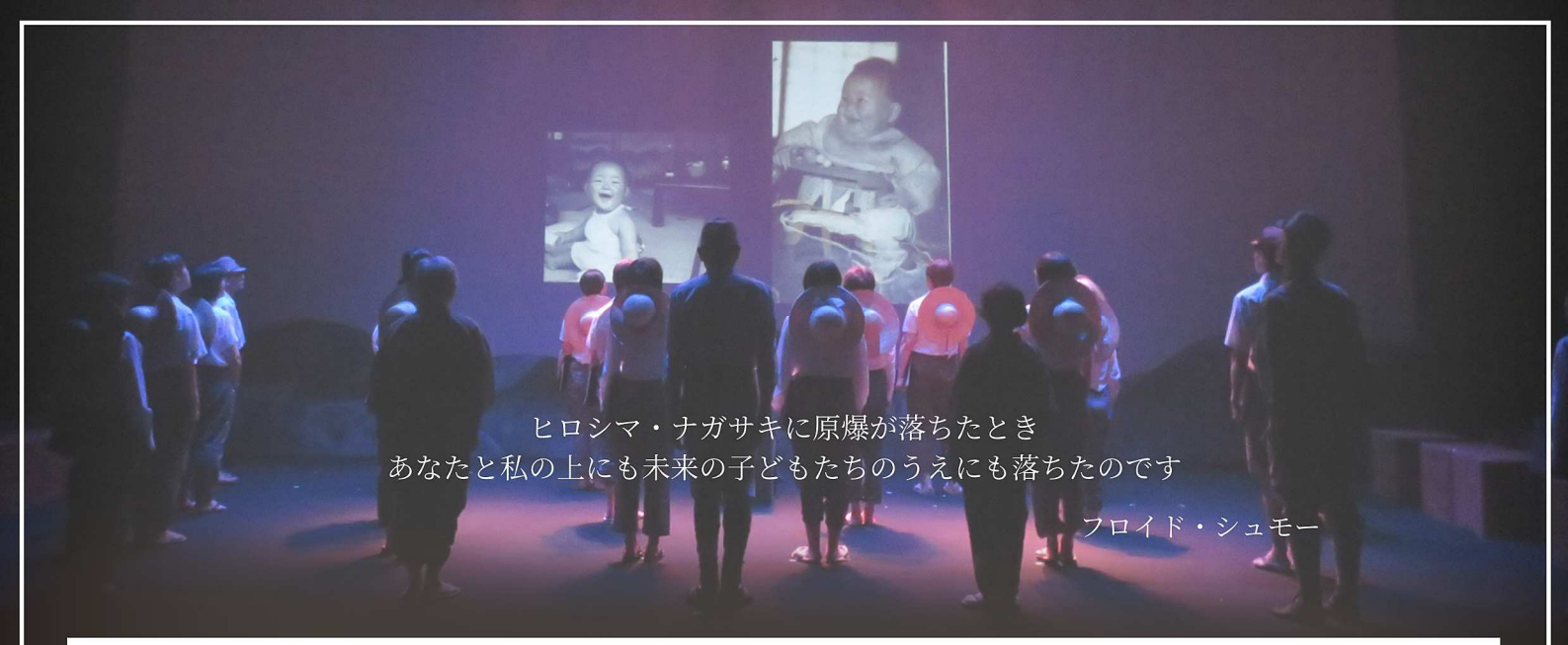

小学校公演「子ども達に伝え続けたい」

（於：2023. 11月久美浜小学校）

このような戦争のお話は、本でちらっと見たぐらいでした。
だから朗読劇を見て、改めて戦争の残酷さが知れました。
戦争が無くなって、平和こそ手に入れば、これから生きていく
人たちはなんとどれくらい安心してくらせるだろう。（小学６年生）

「原爆詩集」を聞いて、もしもぼくのお母さんが死んだらなど
考えて悲しくなりました。いま世界中で戦争が爆破されたり
がれきから人が救助されたりするのをみかけます。一日でも早く
安全で平和になってほしいと思いました。（小学５年生）

原爆が降っただけで、なにも残らないという恐ろしさが
とてつもなく伝わりました。
人の命はころりと、ちょっとした理由で亡くなってしまうので、
今という時間を大切にしたいなと思いました。（小学６年生）

「戦争」という悲劇をまたくり返さないために、
今日学んだ「正義とはつるぎをぬくことではなく愛」ということを
心に刻み込んで、自分達にもできる「思いやり」を大切にすること
や戦争の悲しさを語り伝えていくことで平和な世界を目指して
いきたいと思いました。（小学６年生）

もう命を落としたらもう生きれないというのを聞き、なみだが出ました。
原ばくで生きたままで焼かれたりして、昔のひとは、原ばくを体験して
とてもつらかったんだなと思いました。（小学５年生）

「祈り-1945」は、

ヒロシマ･ナガサキの原爆の記録から手記や詩歌を構成したオリジナル台本で上演する朗読劇です。春の修学旅行前や夏休みの平和学習の機会には、学校公演のための抜粋版を心をこめて子どもたちに届けています。

2008年夏に始まった「祈り-1945」平和を願う朗読劇の上演は、
今年で17回目を迎えました。毎年のように、平和を祈って開催して参りましたが、
同じ地球上では未だに戦火が絶えることはなく、今現在も新たな人々の苦しみが
続いています。
人類が絶滅戦争への道を必死に踏みとどまるために、今、私たちができること。
人が人を殺し、憎みあい、民族、国家がいがみあい、爆弾が落とされ、家が焼かれ、
子を失った母や、親を失った子の嘆きと悲しみに満ち溢れているこの時、
戦争の恐ろしさが決してひとごとではないことを声に出して伝えたい。
今だからこそ、永遠の平和と核兵器の廃絶を願い、未来への責任を考え、命の大切さ
を訴えるこの朗読劇を届けたいと考えます。
同じ志を持つ数名の仲間からはじまり、たくさんの方に支えられてきた小さな市民
活動の舞台です。
皆様がごいっしょに立ち会い、聴いていただくというご参加を表明してくださることを心からお待ちしています。

（於：2024. 5月福住小学校）

公演実績

（2009～2024.5.27）

清滝小学校・奈佐小学校・新田小学校・福住小学校
寺坂小学校・三江小学校・神美小学校・静修小学校
八代小学校・中筋小学校・竹野・中竹野・竹野南小学校
資母小学校・八条小学校・伊佐・高柳・宿南小学校
広谷・建屋・養父小学校・弘道小学校・久美浜小学校
日高西中学校（延2,786名）

8月3日本公演
出典予定

長田新　著『原爆の子』より
原民喜　作「水ヲ下サイ」他
寺尾知文　作『原爆ヒロシマ』より
峠三吉　作「仮繃帯所にて」
長津功三良　作「白い鴉」
「原爆被爆者の手記：流灯」より
新谷君江　内山正一

林幸子 作「ヒロシマの空」
（国立広島原爆死没者追悼記念館提供）
見目誠 パトリック・ブランシェ　訳･編
日仏語版 『少年少女の原爆詩選』より
小山誉美 作『原爆悲唱』より
著作権者 小山曙美 氏
永井隆　著『原子爆弾救護報告書』

永井隆 編『原子雲の下に生きて』より
下田秀枝　作「帰り来ぬ夏の思い」
大平数子　作『少年のひろしま』より「慟哭」
著作権者　大平洋 氏
栗原貞子　作「生ましめんかな」
「ひろしまというとき」（三一書房）
峠三吉　作「原爆詩集　序」　他